

## 反貧困全国キャラバン 2012 広島集会

9月9日、広島平和資料館（広島市中区）のメモリアルホールで反貧困全国キャラバン 2012 の一環として集会が行われました。集会には 270 人の市民が集まり、当事者の切実な訴えや木村達也弁護士の講演に耳を傾けました。

オープニングでは、安佐南生活と健康を守る会の合唱団「つん君と仲間たち」による合唱が行われ、来場者の心を和ませました。

実行委員長の山田延廣弁護士は開会挨拶で、4 年前はマスコミも巻き込んで大きな動きになったが今はどうなっただろうか。非正規雇用や生活保護の状況など 4 年前より悪くなっている。皆さん、力を貸してください、政治を動かしていきましょうと呼びかけました。



### まわりの支えで立ち直り、人間らしい仕事をしていきたい



開会あいさつに続き、当事者の訴えがありました。Aさんは仕事のプレッシャーや職場や寮でのいじめに耐えきれず退職したが、同時に寮も追い出され路上生活を送る羽目になりました。福山派遣村での対応にもう一度人生をやり直せるとの気持ちもわいてきました。まともな職場で人間らしく働き、1 日も早く生活保護から抜け出して胸を張って生きていきたいとアピールしました。

Bさんは2年前急性心筋梗塞で入院し仕事を辞めざるを得なくなりました。新しく就いた仕事の月収は手取りで約 10 万円。月 1 万円の医療費が心配です。今の世の中弱い人は生きていけない感じがする、と考えながら今も仕事をしていると訴えました。

Cさんは自動車関連企業で派遣社員として働いていました。ある日体調を崩し会社を休んでいると突然解雇されました。日々ふさぎ込んでいましたが反貧困ネットワークの仲間の励ましを受け、何とかパートの仕事に就くことができました。厳しい条件ではあるが仕事をすることは元気になり、お世話になった方への恩返しになると言い、締めくくりました。

### 当事者による組織が動くことが 社会を変える

当事者 3 名の訴えの後、生活保護問題緊急対策委員会の木村達也弁護士による講演が行われました。30 年前、多重債務とホームレスをこのままにしておいてはいけないと生活保護人権対策委員会が立ち上がりました。まず、救済の方法として生活保護の知識を弁護士に広めていきました。しかしながら、今となっては労働法の知識、労働法に強い人がいれば救済方法も違っていただろうと回顧しています。

クレサウ運動は被害者の会が組織化され、また弁護士や司法書士な



どの専門家が支え、長い間粘り強く運動をし続けた甲斐あって、改正貸金業法を成立させるなど世論を動かし制度を変えることに成功しました。一方、貧困問題に目を向けると当事者性の確立がいまだに不十分といわざるをえないと思います。支援側に当事者を組織化し、社会を変える運動体にする視点がなかったのではないか、一時は数千万円ものカンパが集まったにも関わらず派遣村に来た人にただ配ってしまってよかったのか、事務局を作り組織化を進めて民主主義運動体にしていくことが必要でしょう、と訴えました。

また、「反貧困」の概念をより具体的にしていくことも必要なのではないでしょうか。そのためには、専門分野別の組織化とともに、自分たちの言葉で運動のキーワードを作って広めていくことが大切だと訴えました。

最後に、(1)君は街頭でマイクが握れるか? 居酒屋談義では社会は変わらない。(2)「弱者には代わりに闘ってやる者が必要だ」(映画「評決」より)と呼びかけて講演を締めくくりました。

広島集会の最後に、木村達也弁護士も加わって平和記念公園から白神社、本通り商店街、八丁堀を経て稲荷大橋へと向かうルートでパレードが行われました。中には、パレードの様子を撮影する市民の姿もありました。

反貧困キャラバン 2012 では、「声をあげれば社会は変わる!あなたの声を聞かせてください!」をコンセプトに全国 47 都道府県を巡回しています。読者の方も公式ホームページ <http://antipoverty2012.com> の「みんなの声」に困っていること、怒っていることなどをお寄せください。(T)



## 暮らしとこころの相談会

9月11日、12日、広島駅南口地下広場で、暮らしとこころの相談会(広島弁護士会主催、法テラス広島・反貧困ネットワーク広島共催)を行いました。これは9月10日から自殺予防週間となっていることから日弁連が全国一斉で開催したものです。

今回は、新たな試みがいくつかありました。一つは、臨床心理士会から多くの方のご協力を頂いたことです。精神面に問題を抱えた方への対応は、これまで相談会の課題とされてきたところですが、今後の良い対応につなげていければと思います。そのほか、11日には、夜間(午後5時以降)の相談も行い、広島駅南口地下広場以外にも福山、呉、尾道・三原、東広島、廿日市、県北(三次)で面談や電話相談を行いました。

相談以外には、11日の12時から国鉄広島ナッパーズによる歌、17時からナッパーズの山上茂典さんの歌と広島交響楽団のメンバー他によるトランペット演奏を行いました。これは、会場管理者から相談会以外のイベントをするように求められたことから急遽企画したものでしたが、会場の雰囲気も良く、結果的には良かったのではないかと思います。恒例の労福協協力によるおむすびの無償配布も行いました。

今回の相談件数は、広島会場において、11日が74件(面談70件、電話4件)、12日が65件(面談55件、電話10件)、合計139件(面談125件、電話14件)でした。ご協力いただいた皆様ありがとうございました。(H)



国鉄広島ナッパーズの歌



広島交響楽団からも

# 戸籍も学歴もありませんが、広島のみなさんよろしく

シェルター卒業生 22歳 男性

## 父と二人

私には戸籍というものがありません。正確に言うとあるのかも知れませんが全く分からないからです。

私は、もの心ついた4~5歳ころからすでに父親と二人だけで車上生活をしていました。全国、沖縄と北海道を除いてすべてのところに行ったように思います。父親は毎日をパチンコで稼ぐ、いわゆるパチプロでした。軽自動車に乗り、各地を転々とするのです。寝泊りは車の中、風呂は時々スーパー銭湯に行っていました。食事は殆どコンビニの弁当でした。目的地に着くと待ち合わせの時間を決めてそれぞれ分かれるのです。私はパチンコ屋に入るのが嫌いだったので、近くの公園やデパート、図書館などで時間をつぶします。小さい子どもが一人ウロウロしているものですから、今までに数十回も補導されたことがあります。当然、学校には全然行っていません。読み書きは父親が教えてくれました。6歳の誕生日にひらがなの練習ドリルを買ってくれました。嬉しかったのを今でも覚えています。運転をする父親に「これ何て読むの？」など聞きながら覚えました。15~16歳のころから何で自分はこんな生活をしているのだろうかと疑問に思うようになりました。同じような年の子どもが学生服を着て学校に行っているのを見て、羨ましく思って父親に聞いたところ、ムスっとしてしまいました。その時、自分は他人とは違うのだと思うようになりました。

14歳のころだったと思います。自分にはどうしてお母さんがいないのか聞いたことがあります。小さいころにも一度聞いたことがありましたが、再度聞いたところ、今までの態度とはまったく違い、すごく辛そうな表情で「おまえを生んだあと、しばらくして亡くなった」と話してくれました。私は、その時に父親は母親との思い出の地を捨てたのではないかと思いました。それ以後は、一度も聞いていません。聞いてはならないという雰囲気だったからです。

## 自分一人になって

昨年8月の終わり、大阪の待ち合わせ場所に行きましたが、待てど暮らせど父親は来ませんでした。3日間その場にいました。交番にも行きました。交通事故ではと心配だったからです。しかし、そういう様子はありませんでした。3日目にしてやっと自分は捨てられたんだという気持ちになりました。どうしようかと悩みましたが、遠い昔に、生まれは鹿児島だということをチラッと聞いたような気がして、とにかく鹿児島に行ってみようと考えました。わずかなお金しか持っていませんでしたので、途中の岡山では日雇いの仕事などもしました。数ヶ月かけて広島に着きました。何とかして交通費を稼がないといけないと考えハローワークに行きました。そこで、反貧困ネットワークの秋田弁護士を紹介してくれたのです。

広島のみなさんは会う人会う人皆さん親切でした。今までこんなに親切にされたことが無かったものですから、出来るのであれば広島に住みたいと考えようになりました。また、父親のことについても、「お父さんは、あなたが20歳になったので、自分の責任はやっと果たせたと考えて突き放したんじゃないかな」と言われました。私は、その時、初めて胸の中のモヤモヤしたものが消える思いでした。

それ以来、気分はすごくすっきりしました。自分も大人になったんだ。これからは自分一人で生活をしていこうと考えるようになったからです。しかし、万一父親に再会した場合は、思いっきり一発ぶん殴るつもりです。ただ、その時、父親が生活に困っていれば面倒はみるでしょう。複雑な気持ちに変わりはありません。



私は、現在、家庭裁判所に申し立てて、戸籍をつくる手続きをしています。そして、住民票をつくり、免許なども取って、仕事に頑張りたいと考えています。常に前向きに考えて行くつもりです。そして、結婚し、子どもを育てる生活をつくっていきたいと考えています。周りの皆さんからは、改めて学校に行ったらどうかと勧めてくれる人もいます。有難いとは思いますが、今のところは、学歴が問われない仕事を早く見つけて仕事がしたいです。広島のみなさん、これからもよろしくお願いします。

## 勉強会「社会保険労務士について」「障害年金について」参加報告

講師 社会保険労務士 畝田谷栄子氏

8月23日に社会保険労務士・行政書士・社会福祉士の畝田谷栄子先生にお越しいただき、公的年金について勉強会が行われました。

社会保険労務士とは社会保険労務士法に基づき、企業の健全な発展と労働者及び個人の方々の福祉の向上を目的とする国家資格者です。主な仕事は人事労務管理のコンサルティング、年金相談、労働社会保険手続き等の代行です。また、特定社会保険労務士は紛争解決手続代理業務を行うことができます。

勉強会ではまず公的年金の基礎知識を話していただいた後、障害給付について話していただきました。

一見、障害給付が難しいような場合でも再発や治療内容などを丁寧に聞き取り、初診日を特定することによって支給してもらえる場合があることや、初診を受けた年齢が重要である事、会社での健康診断の日が初診日となる場合もある事などを話していただきました。そして、身体障害者手帳を交付されていなくても障害年金が支給されることもあるし、年金は改正前の法律が経過措置として残っていくので、ちゃんと専門家に相談すべきであるにご注意くださいました。

最後に精神疾患の方の障害年金について、その診断の難しさや、年金請求の難しさ、支援者として注意すべき点などを、解りやすく丁寧に話していただきました。

この度の勉強会は、書籍では学ぶことのできない現場での問題点や解決策について、解りやすい資料と畝田谷先生の実体験を踏まえて具体的に教えていただくことができ、大変有意義な勉強会でした。(R)

### ～ ほっとサロン 便り ～

7月27日(金)はチキンカレー、8月27日(月)はシーフードカレー。月1回の昼食会にはたくさん参加していただいています。月・水・金の13時～16時は、従来どおり「ほっとサロン」を開催しています。

#### ほっとサロンの電話:082-545-7709

食品は、フードバンクからたくさん提供していただいておりますが、カップラーメンなどインスタント食品が不足しています。寄付を募集中です。



左の写真は、三原市久井町の方から寄付していただいたお米です。30Kg×5袋。写真は2袋が精米に出たあと撮りました。

#### シェルターの利用状況

10代	11人
20代	44人
30代	75人
40代	73人
50代	60人
60代	44人
70代	19人
80代	5人
不明	19人
合計	335人

(同伴家族を含む)

2012年9月13日現在

寄付食材お届け先：〒730-0051 広島市中区大手町5-16-18 PALビル4階

会費・寄付振込先：

広島銀行 白島支店 普通 3235401 反貧困ネットワーク広島  
郵便為替 01390-1-98338 加入者 反貧困ネットワーク広島

正会員(個人)年会費 2,000円  
正会員(団体)年会費 5,000円  
賛助会員(個人)年会費 5,000円  
賛助会員(団体)年会費 10,000円



NPO 法人 反貧困ネットワーク広島  
事務局 広島市中区東白島 14-15  
NTTクレド白島ビル7階  
広島綜合法律会計事務所内  
電話：082-227-8181 FAX：082-227-1200  
相談専用電話 090-4890-1579 (10時～17時)

